

デジタルツール等の活用について

課題

- ・ 多様化・複雑化する行政課題に対して、人的・財政的に限られたリソースの中で対応していく必要がある。

解決策

- ・ ローコードツールや現状把握・分析に適したツールを導入し、課題を熟知した市職員が活用することにより、行政課題に対して迅速かつ的確な対応が可能となる。
(ローコードツールを活用したアプリによる業務効率化)

2021年度

2022年度～2027年度

導入に向けた
調査・研究

各種ツールの導入・運用（60月の長期継続契約）

★2023年2月～3月

ハッカソンの開催による各種ツールの利用促進

ツールの種類

できること

想定活用例

ローコードツール (kintone)

システムやアプリの作成

各種台帳のシステム化

B I ツール (Tableau)

現状の可視化、グラフ作成

行政課題の可視化、情報公開

360° カメラ (THETA360)

全方位画像データの公開

公共施設等の案内の充実

人流分析ツール (KDDI Location Analyzer)

任意の範囲・期間の人流分析

イベント等における人流の把握

ローコードツール (kintone) 5ライセンス

- ✓ プログラミングの知識がなくてもアプリ作成可
- ✓ 申請業務や台帳管理など、職員のアイデア次第で様々な用途に活用できる

業務システムアプリを
必要な数だけ追加できる



キントーンさえ見れば
仕事が進められる



ドラッグ&ドロップで項目を並べるだけ

ドラッグ&ドロップが必要な項目を選んで並べれば、イメージ通りのアプリを作成できます。
アプリを使いながら改善していくことも可能です。



BIツール (Tableau) 5ライセンス

- ✓ 各種データを集約・可視化し分析を補助
- ✓ EBPMの基礎として、またオープンデータとして市民サービスの向上に寄与



360° カメラ (THETA360) 9ライセンス カメラ2台

- ✓ 全方位画像データの撮影・公開
- ✓ 公共施設の案内の充実や、オンライン観光などの実現が可能



人流分析ツール (KDDI Location Analyzer) 1ライセンス ※ライセンス共有可

- ✓ 任意の範囲・期間の人流分析
- ✓ イベント時の人流・滞在時間の把握や、交通量の傾向などを分析・可視化が可能

